

豊かな育ちと確かな学びの実現にむけて

ふるさと科による地域住民との連携協働と 地域コーディネーターの役割



岩手県 大槌町教育委員会

学務課 指導主事

杉田哲朗

学校支援地域コーディネーター

木村里美

ひょうたん島のある町 おおつち



震災津波前のひょうたん島



- ・リアス式海岸美
- ・面積 200.59km²
- ・人口 12,314人(2016/5/31)
- ・基幹産業・水産業



- 1 「東日本大震災津波」からのあゆみ
- 2 小中一貫教育の導入と「ふるさと科」創設
- 3 学校支援地域コーディネーターの役割
 - (1)学校支援地域カレンダーの作成
 - (2)「ふるさと科」のコーディネート
- 4 「ふるさと科」とコミュニティ・スクールの推進





人的被害 (24年3月31日現在)

死亡者

- ・809人(864人:28年2月1日現在)
(身元確認ができたご遺体745人)

行方不明者

- ・476人(421人:28年2月1日現在)

小・中・高生の犠牲者

- ・小学生:3名(2年生2名、5年生1名)
- ・中学生:2名(1年2名)
- ・高校生:6名(3年生5名、2年生1名)

7

家族を亡くした児童生徒

父母を亡くした児童生徒

両親を亡くした児童生徒

小学校:1名
中学校:1名

父親を亡くした児童生徒

小学校:6名
中学校:11名

母親を亡くした児童生徒

小学校:17名
中学校:8名

悲しみ 不安
恐怖 絶望
喪失感

8

津波による学校の被害状況

津波で使えなくなった学校

- ・ 小学校（5校中4校が被害）
浸水被害・・・3校（うち1校が火災も）
地震被害・・・1校
- ・ 中学校（2校中1校が被害）
浸水被害にあわせて火災被害も受ける

9

大槌小学校



大槌北小学校



赤浜小学校



大槌中学校 (5月5日上空から)



13

学校再開

いつ?

- ・ 始業式 4月20日 (町内小中同日)
- ・ 入学式 4月25日 (町内小中同日)

どこで?

小学校

大槌小学校→陸中海岸青少年の家

大槌北小学校

安渡小学校

赤浜小学校

吉里吉里小学校

中学校

大槌中学校：1, 2年→吉里吉里中学校

3年→大槌高等学校

小学校 4 校そろっての対面式



15

体育館をパーテーションで区切って



16

仮設校舎で再々スタート

◇建設候補地の選定問題で遅れていた仮設校舎が

9月に完成し引っ越し、開校

- ・小学校棟 2棟（小学校4校が使用）
- ・中学校棟 2棟（大槌中学校が使用）
- ・体育館棟 1棟
- ・グラウンド

◇ほとんどがスクールバスで通学

17

小・中がそろい対面式



18

一学期できなかつた行事も少しずつできるように



小中一貫教育導入の背景

震災前からの課題

学力向上
不登校・問題行動
小・中の段差
指導方法の改善

中1ギャップへの対応



早まる成長 → 思春期の早期化、自意識の芽生え
自尊感情の低下

小学校と中学校がより連携を深め、学校・保護者・
地域住民が協働して総合的に子どもたちを育む仕組み

震災後の課題

■校舎の被災

小学校4校、中学校1校が被災

→学習の場がない→不安感

■生活環境の変化(被災状況調査6月現在)

→避難所や仮設住宅での生活

仮設生活児童生徒 H25年 40%⇒ H27年 31%

→生活ストレス等

要サポート児童生徒数 H25年 20%⇒ H27年 17%



★教育環境の復興

→安心して学べる新しい学校の建設

→9年間の継続性を持った心のケア

★学校だけでは解決できない課題解決への取組

→学校・保護者・地域住民の連携・協働でつくる教育

小中一貫教育でねらうもの

すべての大槌の子どもたちに

豊かな「育ち」と確かな「学び」

を実現する

- 義務教育9年間の計画的・継続的な学び
- 「生きる力」「ふるさと創生」の教育
- 学校・保護者・地域住民の参画による教育活動

一貫教育は、目標ではなく、方法・考え方

小中一貫教育の柱として「ふるさと科」を導入

「ふるさと科」

(平成24年12月18日教育課程特例校指定)

「ふるさと科」でねらうもの

生きる力

ふるさと創生

復興・防災を基盤とした「生きる力」
及び「ふるさと創生」を推進し、
地域や自分の生き方を見つめ、
大槌町の復興発展を担う人材の育成

学校・保護者・地域が一体となり
連携・協働して実現していく

23

学校・保護者・地域住民の願いを込める教育

チームでつくる「ふるさと科」

実行委員会の開催 (H24年 年2回 26名)

慶応義塾大学SFC研究所教授 ・ 岩手大学教授 ・ 町内住職

漁業協同組合長 ・ 商工会長 ・ 農業組合長

郷土芸能団体連絡協議会長 ・ 町役場課長 ・ 社会福祉協議会会長

各中学校区PTA会長 ・ 他市町村校長 ・ 町内校長

・ 教育事務所指導主事

従来の教育は学校で作り、学校で実施
「ふるさと科」は学校で終結する学びではない

「ふるさと科」の9年間を貫く3つの柱

「ふるさとを創り、ふるさとに生きる」 子どもを育む

地域への
愛着を
育む学び

生き方
進路指導を
充実させる力を育
む学び

防災教育を
中心とした学び

25

1 地域への愛着を育む学び	2 生き方・進路指導を充実させる力を育む学び	3 防災教育を中心とした学び
<ul style="list-style-type: none">・地域の歴史や特産を学び、地域社会への関心を高め、主体的にかかわる態度を育成する・郷土の文化・郷土芸能を学び郷土への愛着心を高める・町の復興発展をとらえ、ふるさとの将来像を見つめる	<ul style="list-style-type: none">・郷土の産業や経済を学び生き方や進路を考える・復興を目指す地域社会の中で自分の役割を理解し、将来を切り開く能力の育成する・地域や多様な企業・団体地連携した職場体験の実施による、生き方を実現しようとする態度を育成する	<ul style="list-style-type: none">郷土の自然・地形を理解するとともに災害について理解し、防災体制の意義や、災害時や防災に対しての主体的な判断力と実践力を育成する

26

学校支援地域コーディネーターの配置

○町内に2名配置

地域住民 1名、NPO 1名

○主な活動内容

1 学校支援地域カレンダーの作成

2 「ふるさと科」のコーディネート

学校との打ち合わせ

地域との打ち合わせ

内容と日程の調整

3 教育委員会事務局との打ち合わせ

※学校支援地域コーディネーターは、学校の「お手伝い」ではなく、主体的に学校と保護者・地域をつなぎ、互いを高めていく(=連携・協働)

27

1 学校支援地域カレンダーの作成

平成28年度 大槌町立学校区

学校支援地域カレンダー

【掲載学校等】

大槌学園

吉里吉里学園

(小学部・中学部)

大槌高等学校

大槌町コミュニティ・スクール協議会

このカレンダーは、町内の小中高校生の学校生活への地域の応援が、より一層充実することを期待して作成しました。

また、スペースを利用して、これまで行われたふるさと科の授業風景の写真を載せました。「豊かな育ち」と「確かな学び」の実現のために、「小中一貫教育」と、その取り組みの一つである「ふるさと科」を共に充実させていきましょう。



吉里吉里学園3年ふるさと科 町たんけん / 講師 はまぎく若だんな会

大槌町コミュニティ・スクール協議会 学校地域協働部会

○

28

1 学校支援地域カレンダーの作成

「ふるさと科」について

大槌町では、今年度から「小中一貫教育」を本格実施しました。これは、義務教育にあたる9年間の系統性を大切にし、すべての子どもたちの豊かな「育ち」と確かな「学び」を実現します。また、学校・保護者・地域が一体となって、連携・協働しながら進めていきます。この「小中一貫教育」の取り組みの一つとして、特設の科目でふるさとを学び「ふるさと科」を全学年に設置しています。

「生きる力」

「ふるさと創生」

ふるさと科でねらうもの

○ 「生きる力」

命やものの大切と人の絆の大切さを受け止め、人としてのあり方や自らの生き方を考え見つめる。

○ 「ふるさと創生」

地域復興をめざすふるさとの中で自らの役割や責任を考え、ふるさとを支える担い手になる。



復興・防災を基盤とした「生きる力」「ふるさと創生」を推進し、地域や自分の生き方を見つめ、大槌町の復興発展を担う人材を育成します。

29

1 学校支援地域カレンダーの作成

地域への愛着を
育む学び

生き方・進路指導を
充実させる力を育む学び

防災教育を
中心とした学び

ふるさと科の三つの柱



○ 地域への愛着を育む学び

- ・地域の歴史や特産を学び、地域社会への関心を高め、主体的にかかわる態度を育成する。
- ・郷土の文化、郷土芸能を学び、郷土への愛着心を高める。
- ・町の復興発展をとらえ、ふるさとの将来像を見つめる。

○ 生き方・進路指導を充実させる力を育む学び

- ・郷土の産業や経済を学び、憧れをもち、生き方や進路指導を考えさせる。
- ・復興をめざす地域社会の中で自分の役割を理解し、主体的に将来を切り拓く能力を育成する。
- ・地域や多様な企業・団体と連携した職場体験により、生き方を考え実現しようとする態度を育成する。



○ 防災教育を中心とした学び

- ・郷土の自然・地形や災害、防災体制の意義について理解を深め、災害時や防災に対する主体的な判断力と実践力を育成する。



30

1 学校支援地域カレンダーの作成

平成28年度 大槌町立学校区
学校行事カレンダー

7 月

【掲載学校】
大槌学園・吉里吉里学園小学部・吉里吉里学園中学部・大槌高等学校

日	月	火	水	木	金	土
26	27	28	29	30	1	2
3 (大槌学園) 県通信陸上(7~9年) 吹奏楽コンクール 沿岸地区大会(4~9年) (吉里中) 県通信陸上 (吉里中) 吹奏楽コンクール 沿岸地区大会 (大高) ビジネス文書実務検定	4 (大槌学園) 期末大清掃(~8日) (1~6年) (大槌学園) 臨時5時間(~6日) (1~6年) (大槌学園) 朝集会(7~9年) (吉里中) 朝集会・期末大清掃 (大高) 整宮指導④	5 (大槌学園) 音楽朝会(1~6年) (吉里小/吉里中) 郷土芸能 リハーサル (吉里中) 全校朝会 (大高) 三者面談 (午前授業・~7日)	6 (大槌学園) 期末大清掃(~8日) (7~9年) (大槌学園) 算数大会(~7日) (大槌学園) 期末テスト(~7日) (大槌学園) 期末テスト(~7日) (5・6年) (吉里小/吉里中) 郷土芸能発表会 (大高) 野球応援練習(~7日)	7 (大槌学園・吉里学園) 脊柱側弯検査 (5年他) (大槌学園) 集金日(1~6年) (大槌学園) 部集会(7~9年) (吉里小) 給食費集金日	8 (大槌学園) 合同地区集会 (吉里小) 期末時程① (吉里中) 高校説明会(8・9年) 漢字検定 (大高) 高校野球選手権 岩手大会(~21日)	9
10	11 (大槌学園) 合唱集会(7~9年) (吉里小) 期末時程② (大高) 生徒会役員選挙	12 (大槌学園) 児童朝会(1~6年) (大槌学園) 漢字コンクール (1~9年) (大槌学園) 9学年性指導 (家庭教育事業) (吉里小) 期末時程③ (吉里中) 生徒朝会	13 (大槌学園) 耳鼻科検診 (3・5年) (大高) 3年就職希望調査①②	14 (大槌学園) 県中総体壮行式 (7~9年) (大槌学園) 児童集会(1~6年) (大槌学園) 給食費集金日 (1~6年) (吉里小) 集金日 (吉里中) 性教育講演会 県中総体壮行式	15 (大槌学園) 海洋生物ふれあい 体験(4年)	16 (大槌学園/吉里中) 県中総体
17 (大槌学園) 県中総体	18 海の日 (大槌学園) 県中総体	19 (大槌学園) 期末面談① (1~9年) (大槌学園) 臨時5時間(~22日) (大槌学園) 県中総体報告会 (7~9年) (吉里中) 全校朝会 宿泊研修事前研修	20 (大槌学園) 期末面談② (吉里小/吉里中) 保護者面談①	21 (大槌学園) 期末面談③ (吉里小/吉里中) 保護者面談②	22 (大槌学園) 期末面談④ (吉里小/吉里中) 保護者面談③ (大高) 終業式(午後)	23 (大高) 夏期休業(~8/16)
24	25 (大槌学園・吉里学園) 終業式 (大槌学園) 午前下校(1~6年) 壮行式(水泳) (1~6年) (大高) 夏季課外(~29日)	26 (大槌学園) 夏季休業(~8/16) (大槌学園) 釜石高校体験入学 (9年) (吉里小) 夏季休業(~8/17) (吉里中) 夏季休業(~8/17) (吉里中) 釜石高校体験入学	27 (大槌学園) 大槌高校体験入学 (9年) (吉里中) 大槌高校体験入学 (大高) 一日体験入学	28 (大槌学園) 釜石商工高校体験入学 (9年) (吉里中) 釜石商工高校体験入学	29	30
31 (大槌学園) 地区駅伝(7~9年) (大槌学園) 吹奏楽コンクール 県大会(5・6年)						

【大槌町コミュニティ・スクール協議会 学校地域協働部会】

2 「ふるさと科」のコーディネート

町探検①:「若だんな会」との連携・協働



2 「ふるさと科」のコーディネート

町探検②:「若だんな会」との連携・協働



2 「ふるさと科」のコーディネート

町探検③:「若だんな会」との連携・協働



2 「ふるさと科」のコーディネート

町探検④:「若だんな会」との連携・協働



2 「ふるさと科」のコーディネート

「鮭」学習①:漁協・漁師・魚屋との連携・協働



2 「ふるさと科」のコーディネート

「鮭」学習②:漁協・漁師・魚屋との連携・協働



2 「ふるさと科」のコーディネート

「鮭」学習③:漁協・漁師・魚屋との連携・協働



2 「ふるさと科」のコーディネート

郷土料理：地域のお年寄りとの連携・協働



2 「ふるさと科」のコーディネート

「鮭」学習④：漁協・漁師・魚屋との連携・協働



2 「ふるさと科」のコーディネート

昔遊び：地域のお年寄りとの連携・協働



2 「ふるさと科」のコーディネート

職場体験学習①：大槌町内の企業・事業所



2 「ふるさと科」のコーディネート

職場体験学習②：大槌町内の企業・事業所



平成28年6月吉日

様
「職場体験学習」受け入れご担当者様

大槌町立大槌学園
学園長 大森 厚志
大槌町立大槌学園
9学年主任 浅野 倫子
大槌町教育委員会学校地域協働部会

「職場体験学習」受入れのお願いについて（依頼）

初夏の候、皆様にはますますご活躍のこととお慶び申し上げます。
平素は大槌町立大槌学園の教育活動にご理解いただきまして誠にありがとうございます。
さて、大槌学園では、「ふるさと科」の授業の取り組みとして、例年9学年生（中学校3年生）が「職場体験学習」を行っており、昨年度は、大槌町内4ヶ所の企業・事業所のご協力をいただき充実した職場体験をさせていただきました。
本年度も下記の予定で「職場体験学習」を計画しており、中学生を受け入れて下さる企業・事業所をお願いしたいと思います。
そこで、貴企業・事業所において「職場体験学習」の受け入れ可否をご検討いただき、別紙用紙に記入の上、6月23日（木）までに下記FAX番号までご返信いただければ幸いです。
なお、この取り組みでは、大槌町教育委員会学校支援地域コーディネーターの木村里美さん、佐々木悠さんに企業・事業所との仲介をしていただき進めてまいりますのでよろしくお願いたします。

記

【目的】

- (1) 「働く」ということを実際に体験することで進路意識を高める。
- (2) 社会におけるマナーを学ぶ。
- (3) 自分が知りたい業種について学ぶ機会とする。
- (4) 大槌町内で働く人の現状を学ぶとともにふるさとへの愛着を育くむ。

【体験日時】

平成28年9月1日(木)、2日(金)

【実施学年および生徒数】

大槌町立大槌学園 9学年 90名

【連絡先・問い合わせ先】

担当：木村里美・佐々木悠

電話： FAX：

※おかげ様で昨年度は町内の44事業所に受け入れ頂きました。しかし生徒数が減少しているため、全ての事業所に職場体験に伺うことができないこともあるかもしれません。ご理解下さるようお願い申し上げます。

大槌町教育委員会学校支援地域コーディネーター宛

FAX：0193-42-2289（大槌学園後期課程内）

受入企業様 記入用紙
※6/23(木)までにご返信をお願いします

大槌学園9学年 — 職場体験 —

事業所名			
代表者名			
郵便番号	〒028		
住所	大槌町		
職場体験のご担当者名	※実務のご連絡をさせて頂く方のお名前をご記入下さい (役柄) (お名前)		
電話番号		FAX番号	
E-mail			

職場体験の詳細 9月1日(木)・2日(金) ※計2日間

体験時間 (原則として9:00～16:00でお願いします)	・9:00～16:00で可能(昼食休憩： ～) ・その他の時間で受け入れ (～)		
受入可能人数	()人	内訳：男子 名 ・ 女子 名 ・ どちらでもよい	
主な体験内容			
主な活動場所	1日目	2日目	
生徒の昼食	弁当持参	食堂	その他 ()
生徒の服装 ※体験時	制服	体操服(大中ジャージ)	その他 ()
持ち物	※必要なものがあればご記入下さい。		
事前に生徒に指導して欲しい伝えておきたい内容があればご記入下さい			
備考	※その他、学園側にご要望などあればご記入下さい。		

※受入が難しい場合には、出来る範囲で理由をお教え頂ければと思います。

ご協力ありがとうございます

FAX:

大槌町教育委員会
学校支援地域コーディネーター 木村里美・佐々木悠

2 「ふるさと科」のコーディネート

模擬面接：大槌町内の企業・事業所等



「地域の先生」やボランティアの感想①

○ふるさと科の企画によって、地域と学校そこに住む人の絆を感じ、世代間交流できたことが私にとって宝になりました。ありがとうございました。

○地域の助け合いやつながりが希薄になりがちな昨今、地域コーディネーターの役割は必要なことと思います。益々のご活躍をご期待しております。

「地域の先生」やボランティアの感想②

今年度2度目の参加になりましたが、やっと「ふるさと科」の必要性を感じました。震災前から見守り隊として子どもたちと接してきましたが、もっと中身の濃い、今だからこそやらなければならない活動だと思いました。大槌の自然を肌で感じ、「生き方」を町で働いている方々から学び、将来、必ず大槌の再生に関わってくれるだろう子どもたちの成長を学校、保護者、地域が一体となり育てていかなければと思います。

47

小中一貫教育における学校の配置

大槌町小・中学校 4校を小中一貫教育校に指定 (H27~)

大槌学園

吉里吉里学園

施設一体型小中一貫教育

施設分離型小中一貫教育

義務教育学校

併設型小中一貫校



崩壊したコミュニティを
新しく作り出していく地域

既存の校舎を活用し、これまでのコミュニティ
の良さを維持し豊かにしていく地域

48

学校・家庭・地域住民の連携・協働による 教育活動の推進

- 目指す子どもの姿の作成
- 学校運営協議会の設置
- 学校評価をもとにした学校経営の改善

H28年度～コミュニティスクールへの指定

49

学校運営協議会の重要審議事項・スケジュール

学園長・校長

学校運営協議会

4/5月

・学園・学校経営計画、
年間スケジュールの説明
・予算の説明

・学園・学校経営計画
・予算の承認
・部会年間計画の提示

協議会での学校・各部会の現状報告と情報共有、協議

8/9/10月

第1回自己評価の説明

関係者評価を踏まえた改善点の提示

関係者評価の実施

協議会での学校・各部会の現状報告と情報共有、協議

12/1/2月

第1回自己評価の説明

関係者評価を踏まえた改善点の提示

次年度教職員人事に関する説明

関係者評価の実施

次年度教職員人事に関する意見

大槌が目指す 子どもの姿	学校での取組	子どもの取組	家庭での取組	地域での取組
すすんで学ぶ人 基礎基本を身につけ、 活用し、応用する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 積極的に挑戦できる環境を作る 2. 表現力を身につけ、人に伝える 3. 自ら学ぶ力や意欲を身につける 4. 読書が好きになる環境を作る 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 先生の話をよく聞いて授業でわからないことがあつたらそのままにしない 2. 宿題を忘れずにやる 3. 時間のけじめをつけて家庭学習をやる 4. 忘れ物をしない 5. 読書をする 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保護者として子どもが家庭学習に集中できるような環境（時間・場所）をつくる 2. 保護者として子どもが自分で予定を立てて勉強するように声掛けする 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもが体験を通して学ぶ活動やイベントを行う 2. 放課後や長期休業中に子どもたちが学べる活動を行う
自立する人 主体的に判断し・ 行動する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 互いを認め合える学級づくり 2. 他学年の子どもと交流し、協力できるようにする 3. あいさつ・感謝のきもちを伝えられるようにする 4. 時間を守り、けじめのある集団生活ができる学級をつくる 5. 子どもが将来の夢や希望を持つこと 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 親子で学校であったことについて話す 2. 友達のいいところを認めたり、思いやりのある声掛けをする 3. 自分から進んであいさつをする 4. 家のお手伝いをする 5. 学校生活のルールを守る 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 親子での対話を大切にする 2. 親子で話し合い、毎日できるお手伝いを決めて、継続する 3. 大人が子どもに挨拶などの手本を示す 4. 子どもが約束の時間を守って行動できるようにする 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの体験を深める活動を行う 2. 子どもたちの活躍を地域の大人が褒める 3. 大人が子どもに挨拶などの手本を示す
たくましい心と 体をもつ人 心と体をつくる	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食育の推進 2. 運動・部活動の推進 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 目標を持って運動・部活に取り組む 2. 睡眠をとる。時間になったら自分で寝て、自分で起きる 3. 時間を守って行動する 4. 身の回りの整理整頓・そうじをする 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもが早寝早起きなど、規則正しい生活ができるようにする 2. (小) 子どもが食べ物の好き嫌いを無くすようにする 3. 子どもが身だしなみや身の回りの整理整頓ができるようにする 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもが体力づくりや遊ぶことができる活動やイベントを行う
地域・社会を愛し、 貢献する人 地域を愛する心と行動	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもが安心して学校に通える環境を作る 2. 地域と関わる学習でつながりを深めていく 3. 学校行事・地域行事を通して成長できる環境をつくる 4. 保護者や地域に学校での出来事を伝える 5. 防災訓練を行い、災害に備える 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大槌の良いところを学び、伝える 2. 地域のお祭や伝統芸能を学ぶ 3. 交通ルールを守る 4. 防災訓練を通して命の守り方を学ぶ 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家庭でできる防災について話し合う 2. 学校や社会のルールについて親子で話す 3. 子どもが地域のイベントや行事に参加することを応援する 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 防災の取組を広げ、災害に備える 2. 安全で安心な環境を作る 3. 清掃活動を通して、きれいな街をつくる 4. ふるさとの祭りや郷土芸能を子どもに伝える 5. 交通事故に合わない環境をつくる 6. 子どもが困ったときに助けられる環境を作る
推進方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校・学級経営計画への位置づけ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎期の個人や学級のめあて ・ 児童会・生徒会の取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・ PTAでの取組 ・ 広報・懇談会等での発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民・団体の取組 ・ 広報・懇談会での発信
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員の自己評価 ・ 授業評価 ・ 外部アンケート（12月実施） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童・生徒向けアンケート（12月実施） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者アンケート（12月実施） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 意見交換会（12月頃実施）

コミュニティ・スクールの一層の推進

学園ごとの学校運営協議会の開催（H27年度～）

学校評価の充実

学校評価を生かす教育課程の編成

P・D・C・Aサイクルによる学校経営

学校経営への参画とそれぞれの立場生かした

取組の充実 ⇒ **PTAまなびフェスト**

学校運営協議会を支える「部会」発足（H28年度～）

子ども支援部会 学校地域協働部会

学校地域安全部会

PTAの自主的な取り組みも始まりました

「大槌学園PTAまなびフェスト」

- ※「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣を確立します。
- ※ノーメディアの中で家庭学習を継続させます。
- ※「時と場、相手に応じた挨拶・言葉遣い」の指導を行います。
- ※携帯電話・スマートフォン等をもたせないように協力します。
- ※夜9時以降のメール・LINE・電話等の使用禁止を徹底します。
- ※家庭での語らい・読書の場を設けます。
- ※子どもたちの登下校の安全確保に協力します。



53

コミュニティ・スクールの一層の推進

大槌町コミュニティ・スクール協議会

評価検証委員会

報告

報告

大槌学園

H27年度～ 学校運営協議会の開催
H28年度～ コミュニティ・スクール

吉里吉里学園

H27年度～ 学校運営協議会の開催
H28年度～ コミュニティ・スクール

報告

学校・保護者・地域住民(NPO含む)

子ども支援部会

学校地域支援部会

学校地域安全部会

※ 部会ごとに年3回以上の話し合いを持つ。

54

コミュニティ・スクールの一層の推進

部会名	主な活動内容 (協議内容)	主なメンバー
子ども支援部会	○放課後や長期休業、土曜日の子どもの居場所づくりや学習支援について	教員、保護者、地域住民、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、保健福祉課、教育委員会、NPO等
学校地域協働部会	○「ふるさと科」の推進について ○学校ボランティアについて	教員、保護者、地域住民、学校支援コーディネーター、商工会、教育委員会、NPO等
学校地域安全部会	○通学路交通安全プログラムの実施 ○学校安全計画の検討	教員、保護者、警察、三陸国道事務所、沿岸広域振興局道路整備課、大槌町役場職員、教育委員会等

「ふるさと科」リーフレットの作成



「ふるさと科」リーフレットの作成

- 教科書や副読本ではない。
 - 「リーフレットを教えて終わり」ではない。
 - 座学ではなく学校の枠をこえ、体験する学び。
 - 教員だけではなく地域住民、保護者の願いを盛り込む。
- ⇒ 地域住民、保護者ができる事を考える。

文部科学省事業

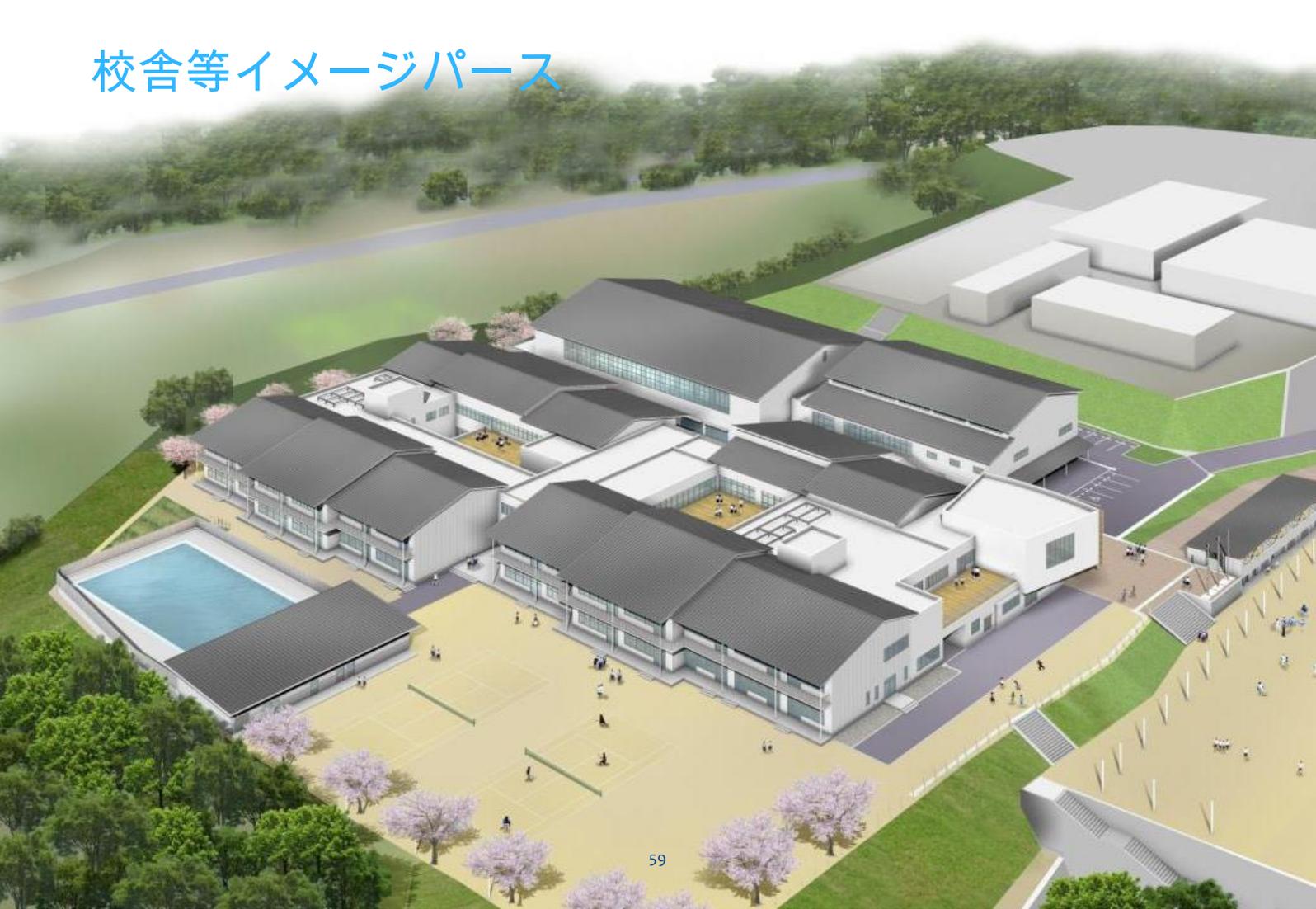
「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生事業」活用

57

「ふるさと科」リーフレット編集会議



校舎等イメージパース



59



「ふるさと科」の取組を通して

- ◇ 地域と連携協働することが「豊かな育ちと確かな学び」につながっている。
- ◇ 学校を中心に、地域住民同士・保護者同士のつながりが生まれた。
- ◇ 学校支援地域コーディネーターの役割は学校と地域をつなぐだけでなく、地域に元気を与えている。

課題

主体的な学びへ

子どもが来ると

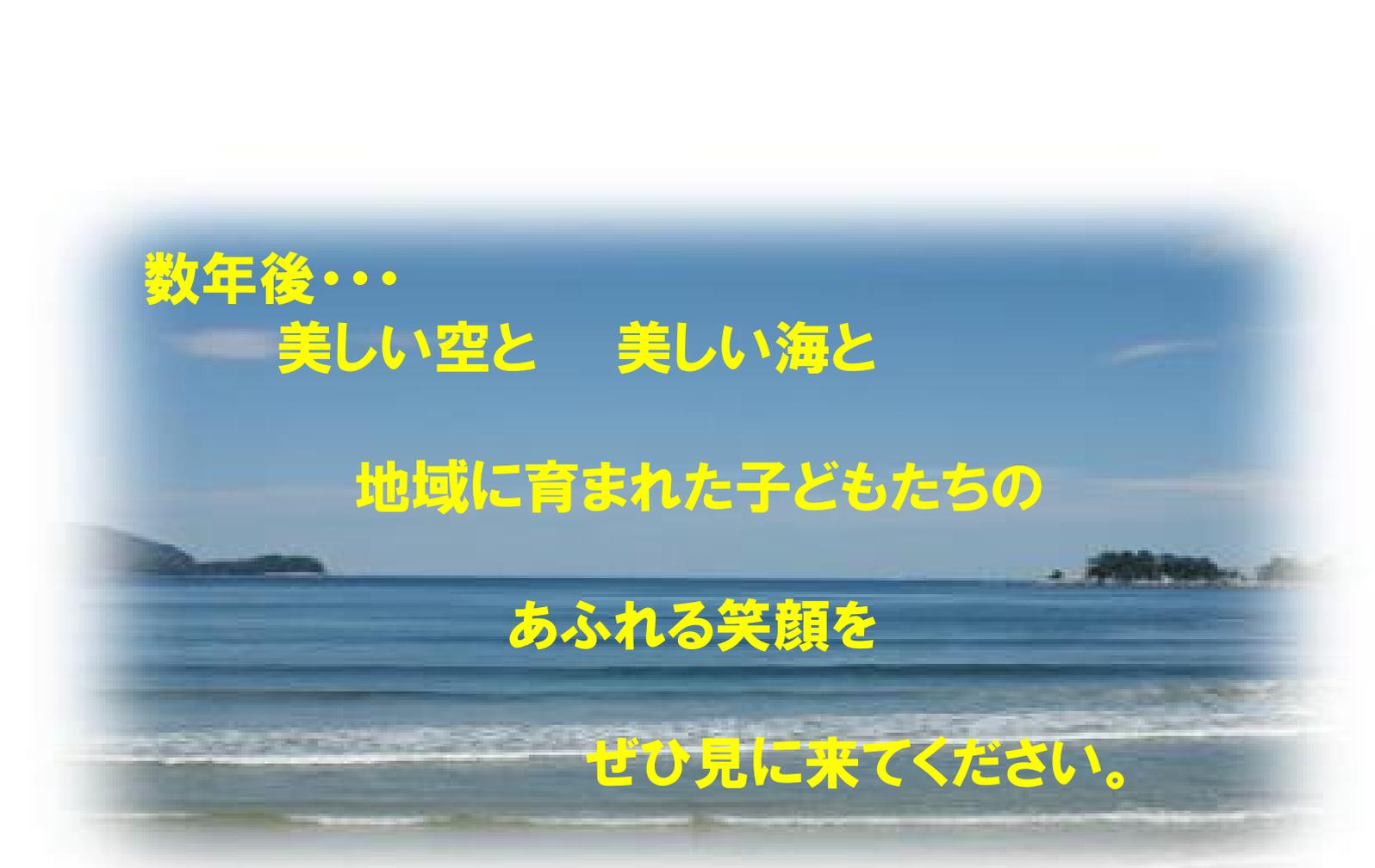
道具や場所の準備が全て整い体験するだけ。

「地域の先生」の話を一方的に聞くだけ。

…では、ねらいを達成しているといえない。

⇒「活動・体験」するだけでなく、学びとしての意義づけを一層明らかにしていく。

⇒「育ち」を見取る仕組みをさらに検討していく。



数年後・・・

美しい空と 美しい海と

地域に育まれた子どもたちの

あふれる笑顔を

ぜひ見に来てください。